

教育現場に見る RESAS 利活用の取組

学校法人川島学園 れいめい中学校 (鹿児島県薩摩川内市)

将来、地方を支える人材を育てるために



RESAS を活用した授業の様子

鹿児島県の学校法人川島学園れいめい中学校では、平成28年度、将来地方を支える人材を育てるために、RESAS を活用して地方創生について考える授業を始めた。

日頃の学習のみでは身に着けることが難しい、思考力や判断力、表現力といった能力を RESAS の活用を通じた一連の過程の中で養うことによ

り、2020年の大学入試改革(※)にも対応することを目指している。

1. 生徒たちが主体的に RESAS を活用したデータ分析を実施
2. 分析した内容を踏まえ地方創生のアイデアを考える
3. プレゼンテーションの準備を行い、実際にアイデアを発表

中学校での授業への RESAS の導入について担当者に話を聞いた。

れいめい中学校 教諭 中学校科長 上門大介氏

(※)2020年度以降の大学入学希望者選抜においては、現行の大学入試センター試験に変わり「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の実施が予定されている。「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」においては知識・技能を十分有しているかの評価も行いつつ、「思考力・判断力・表現力」を中心に評価することを重視した作問とされる予定。

「地方創生」というテーマを扱う方法を模索していた中での RESAS との出会い

---どのような目的や背景、また思いやそこに至る経緯があったのでしょうか

本校では、将来生徒たちがやりたいと思える仕事を具体的にイメージしてもらうために、“夢発見プロジェクト”と題して体験型授業を導入しています。例えば、警察に協力を依頼して、鑑識の仕事を経験するなど、様々な仕事について触れる機会を設けています。

この取組の中で、地元で働くことへのイメージも持ってもらいたいという思いから、昨年からは薩摩川内市にある甕島（こしきしま）への“夢発見アドベンチャーキャンプ”を薩摩川内市とのタイアップで実施しました。

ここでは、自然・歴史・生活文化・生業を総合的に学べる企画として、クルージング、町歩き、きびなごのいびき（捌き）体験などを通じて生徒たちに自分たちの住む地域の現状について学習してもらいました。今年度は、甕島の産業などについてフィールドワークを行い、体験を通じて現地の現状と課題を発見し、そのミッション解決のためのアイデアをグループで考え、最終日には行政関係者・地元住民の方々にプレゼン発表を行いました。

この学習をもとに、「地方創生」というテーマについて生徒たちに考えてもらう方法を模索している中、鹿児島県が実施する RESAS についての講座を知り、受講しました。その講座で RESAS を活用したデータ分析に基づく地方創生の取組を知り、授業で活用できる方法はないかと考えました。そこで授業の一環として「地方創生☆政策アイデアコンテスト」（以下、「アイデアコンテスト」という。）への応募を目指し政策アイデアを考える取組を行うことにしました。

このアイデアコンテストへ応募することで、生徒たちが地方創生のアイデアを主体的に考える機会を得られると思ったためです。

日頃の学習では身に着けることが難しい力を得られた

---生徒たちに主体的にアイデアを考えてもらう中で、特に重視されたポイントなどありましたか

今回重視したポイントは、「生徒たちが自ら考えた発想を大切にする」、「失敗を通じてさらに良いものを作る意欲を引き出す」という点です。

そのため、生徒たちの資料に手を加えず、そのままの純粋な状態でアイデアコンテストに応募させることにしました。



鹿児島県主催
RESASシンポジウムでの発表の様子

実は、アイデアコンテスト応募までの準備期間が十分ではなく、資料やアイデアの完成度はまだまだであったかもしれません。

ただ、この経験を通じて、生徒たちはデータ分析の必要性を知り、それを基にアイデアを考えるとといった日頃の学習では身に着けることの難しい力を得ることができたのではないかと考えています。

「RESAS は教育の現場に必要なツールである」という気付き

---得られた効果や気付きなどはありましたか

まず効果として、薩摩川内市、鹿児島県という地元の現状を知り、その問題点を見つけ出し、生徒たち自身で対策を考える良い機会になりました。

地方自治については公民の授業で学ぶ機会はあるものの、RESAS を扱うことで身近な問題に関係する具体性のある授業が展開できました。

そして気付きとして、生徒自らが地元の問題点について考えるきっかけを与えるという点で、また、日頃の授業では学ぶ機会の少ない「統計学」や「データサイエンス」という新たな分野を学ぶという点で、RESAS は教育の場に必要なツールであることが分かりました。

地元自治体も巻き込み、生徒の成長を支えていく

---今後の取組について聞かせてください

2017 年度も RESAS を活用してアイデアコンテストに応募したり、プレゼン発表会を実施したりするなどの一連の取組を中学 3 年生の「総合的な学習の時間」で導入しています。

具体的には、生徒たちに次のような流れで学習させることを考えています。

- ① RESAS に触れる
- ② (生徒たちの言語能力・コミュニケーション能力の向上を焦点に) インタビューの仕方、記事の書き方を学ぶ
- ③ 住んでいる薩摩川内市を知る
- ④ 甕島での“夢発見アドベンチャーキャンプ”を実施し、住民の方々への取材などを

行う

- ⑤ 甌島をはじめとした地元を元気にするアイデアを考え、アイデアコンテストに向けたプレゼン制作を行う。
- ⑥ 有識者とのディスカッション
- ⑦ アイデアコンテストに応募
«以下、独自のプレゼン発表会等»
- ⑧ プレゼン発表の準備
- ⑨ プレゼンの練習
- ⑩ 地方自治体に提案
- ⑪ プレゼン発表会

地元自治体にもこの取組を理解して頂き、生徒たちの活動に協力して頂けるよう働きかけ、地元自治体も巻き込んで生徒の成長を支えていきたいと考えています。

教育現場における RESAS を活用した取組がもっと普及してほしい

---最後に教育現場における RESAS の普及に関して、何かメッセージはありますか

これまでお話してきた我々のような取組が、教育現場に広く普及していくことを期待しています。

なぜならば、RESAS を活用したデータ分析から地方創生アイデアを考えてプレゼンテーションを行うという一連の流れが、思考力や判断力、表現力といった日頃の学習では身に着けることが難しい生徒たちの力を伸ばしてくれると考えるからです。

こうした取組が普及することで、若い世代が地方創生に向き合う機会が増え、結果として将来、地方を支える人材が育つことにつながるのではないかと考えています。